

四国遍路日記

種田山頭火

24pt + 16pt

十一月一日 晴、行程七里、もみぢ屋という宿に泊る。

——有明月のうつくしき。

今朝はいよいよ出発、更始一新、転一步のたしかかな一步を踏み出さなければならぬ。

9pt/16pt

七時出立、徳島へ向う（先夜の苦しさを考え味わいつつ）。

このあたりは水郷である、吉野川の支流がゆるやかに流れ、蘆荻が見わたすかぎり風に靡いている、水に沿って水を眺めながら歩いて行く。

10pt/17pt

宮島という部落へまいって十郎兵衛の遺跡を見た、道筋を訊ねたら嘘を覚えてくれた人がある、悪意からではなからうけれど、旅人に同情がなさすぎる。

発動汽船で別宮川を渡して貰う、大河らしく濁流滔々として流れている（渡船賃は市営なので無料）。

11pt/19pt

徳島は通りぬける、ずいぶん急いだけれど道程はなかなか捗らない、日が落ちてから、簀島（義経上陸地といわれる）のほとりの宿に泊った。八十歳近い老爺一人で営業しているらしいが、この老爺なかなか曲者らしい、嫌な人間である、調度も賄も悪くて、私をして旅のわびしさせつなさを感じしめるに十分であった！（皮肉的に表現すれば草紅葉のよさの一端もない宿だった！）

11pt/19pt 字間ツメ

今日は興垂奉公日、第二回目、恥ずかしいことだが、私はちよっぴりアルコールを摂取して旅情をまぎらした。

同宿四人、修業遍路二人、巡礼母子二人、何だかごみごみごてごてして寝覚勝な夜であった。

12pt/22pt 字間ツメ

(十一月一日)

旅空ほつかりと朝月がある

夜をこめておちつけない葦の葉ずれの

ちかづく山の、とほざかる山の雑木紅葉の

落葉吹きまくる風のよろよろあるく

秋の山山ひきずる地下足袋のやぶれ

お山のぼりくだり何かおとしたやうな

15pt/22pt 字間ツメ

十一月二日 快晴、行程八里、星越山麓、あさひや。

9pt/16pt 字間ツメ

早起早立、まっしぐらにいそぐ、第十八番恩山寺遥拝、第十九番立江寺拝登。

野良で野良働きの人々がお弁当を食べている、私も食べる、わがままをつつしむべし。

10pt/18pt 字間ツメ

飴玉をしゃぶりつついくつかの村を過ぎる、福井（鉄道の終点）というところで、一杯ひっかける、つかれがうすらいだ、山路になる、雑木山の今日この頃は美しい、鉦打で泊ろうと思ったけれど泊めてくれない、また歩きつけて峠の下で泊めて貰う、まったくの山村だが、電話もあればラジオもある、宿は可もなし不可もなしだった、相客は老同行、話し合っているうちに同県人だったので、何となくなつかしかった、好感の持てるおじいさんだった。今夜も風呂なし（昨夜も）、水で身体を拭いたが肌寒を感じた。